

□議員名：松尾数則

1 中山間地域の活性化について

論点	中山間地域の過疎集落医療について市民病院の巡回診療の対応について聞く。
回答	過疎集落医療の必要性について認識はしている。病院経営の安定を図る必要があり、巡回診療については現在未定である。

論点	中山間地域における携帯電話の不感地帯解消について聞く。
回答	携帯電話会社3社のいずれも受信できない不感地域は無いと考えている。電波状態の弱い地域が有るのは認識しているので、引き続き電波状態の改善は求めている。

論点	都市と中山間地域の交流についての考えを聞く。
回答	中山間地域には多くの地域資源があり、都市と農村の交流については本市の魅力、素晴らしさを感じていただき、交流人口の増加、さらには移住など、地域の活性化に結び付けたい。

論点	中山間地域の空き家対策について、その状況を聞く。
回答	中山間地域の空き家数は把握していない。空き家の利活用についてはUJIの受入れ等中山間地域の活性化に効果があることは認識している。空き家対策については空き家活性検討プロジェクトにおいて現在検討中である。

2 山陽小野田市の農業の有り方について

論点	農業の魅力発信について聞く。
回答	農地の高度化を図り、ブランド化を進める。品質向上による差別化と生産拡大、販路の開拓に努め、所得向上を図りたい。

論点	6次産業について国・県の考え方を聞く。
回答	国・県においては総合化事業計画等農商工連携の一体的な窓口を設け、6次産業の推進を積極的に図っている。

論点	6次産業について山陽小野田市の考え方を聞く。
回答	6次産業化・地産地消推進協議会を設け、農林水産業者、商工業者、金融機関等を交え今後の将来像について戦略、構想をまとめていきたい。

論点	美祢市、宇部市においては6次産業の対策部門を設けているが、山陽小野田市の6次産業の対応についての考え方を聞く。
回答	6次産業については進めていきたいと思っている。しかし、マンパワーの問題も有り、農林水産課の中で進めたい。

3 山陽小野田市学校適正規模・適正配置計画について

論点	学校の適正規模について教育委員会の考え方を聞く。
回答	小・中学校とも12学級以上18学級以下を標準としている。現在小学校は、11学級以下が6校、19学級以上が2校、標準規模校は4校である。中学校は、小規模校は3校、標準規模校3校である。

論点	1学級しかないような小規模校における教育委員会の教育方針の考えについて聞く。
回答	少なくとも2学級以上が望ましいが、1学級ということが非常に大きいデメリットであるとは捉えてはいない。いろいろな施策、努力により、デメリット部分を改善したい。

論点	小中一体校について教育委員会の考えを聞く。
回答	中教審の小中一貫教育特別部会によると、中学校の不登校出現率の減少、異年齢集団活動を通じて自尊感情の高まり、教職員の指導方法改善意欲の高まり等メリットがある。山陽小野田市においては厚陽小中学校を一体型小中連携校としてスタートしている埴生地区にも導入を考えている。

論点	複式学級について教育委員会の考えを聞く。
回答	今年度から津布田小学校の3・4年生で複式学級が始まった。教育上の課題が極めて大きい事は認識している。授業において学習リー

	<p>ダーを決める、リーダー学習を推進し互いに認め合い異学年交流が自然にできる複式学級の良さを生かせる取組に努めたい。</p>
--	---